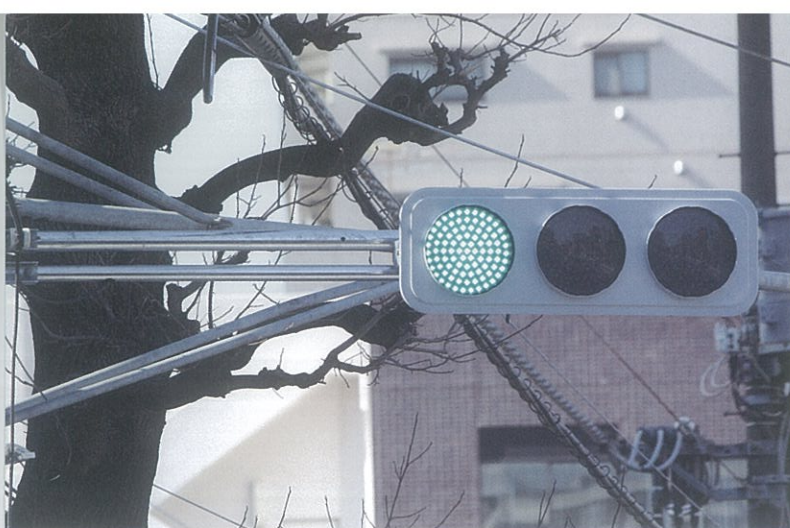




Safety with a smile

NIPPON SIGNAL REPORT 2018





Contents

日本信号グループがめざすもの

- 02 日本信号グループ理念
- 03 価値創造プロセス
- 05 日本信号グループの沿革
- 07 事業の展開状況
- 11 持続可能な世界の実現のために

価値創造のための経営戦略

- 13 トップメッセージ
- 16 中期経営計画

事業活動

- 17 鉄道信号
- 18 AFC
- 19 スマートロード
- 20 スマートパーク
- 21 ビジонаリービジネスセンター／グループ会社

事業活動を支える基盤

- 23 環境
- 29 社会
- 31 コーポレート・ガバナンス
- 35 人材育成
- 37 リスクマネジメント／コンプライアンス

データセクション

- 38 財務・非財務ハイライト
- 41 コーポレート・データ
- 42 組織図

見直しに関する注意事項

「NIPPON SIGNAL REPORT」には、日本信号グループの将来についての計画や予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断したものです。今後の事業活動により、実際の結果が異なる可能性があることをご了承ください。

本レポートについて

日本信号グループは、ステークホルダーの皆様に対して、財務情報と非財務情報をまとめた「NIPPON SIGNAL REPORT」を発行しております。当社の事業概況・ビジョンとともにCSRへの取り組み、財務情報を統合してご報告することで、多様なステークホルダーの皆様へ当社の現在をわかりやすくお伝えしていきます。

報告対象範囲

日本信号(株)および連結対象の関係会社13社
※非連結対象の関係会社の情報も掲載しております。

報告対象期間

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)
※一部期間外の活動報告も掲載しております。

日本信号グループ理念

私たちの使命 Our Mission

私たちは、「安全と信頼」の優れたテクノロジーを通じてより安心、快適な社会の実現に貢献します。

私たちのめざす姿 Our Vision

私たちは、創意と情熱により世界トップレベルのテクノロジーを追求しお客さまに感動を与えるグローバルカンパニーをめざします。

私たちの大切にすべきこと Our Values

1. 安全と信頼を何よりも重視すること。……………モノづくり (生産)
2. お客さまの視点に立ち、お客さまの価値向上に努めること。……コトづくり (事業)
3. 自らの成長に向けてチャレンジすること。……………ヒトづくり (教育)
4. 環境保全に努め、地域、社会の発展に貢献すること。……………マチづくり (CSR)
5. 夢を描き、互いに語りあうこと。……………ミチづくり (未来創造)

私たちの行動規範 ～6つの約束～ Our Code of Conduct

1. お客さま感動満足の追求
2. 公正な企業活動
3. 適正な情報開示と社会とのコミュニケーション
4. 人権の尊重と良好な職場環境の構築
5. 環境保全と積極的な社会貢献活動
6. 会社財産・情報の適正な管理



事業分野における安心と信頼の実現

90年にわたり社会インフラ分野で培ってきた歴史を土台とし
 営業から開発・設計、製造、保守サービスに至るバリューチェーンを通じて
 グループ理念に掲げる「安全と信頼」の優れたテクノロジーによる
 “より安心、快適な社会”の実現に貢献することが、日本信号グループの価値創造プロセスです。



日本信号グループが提供する価値



脈々と受け継がれる「フェールセーフ技術」

日本信号は、鉄道信号技術の国産化と発展を担い、1928年に誕生しました。それから約90年、高速で走る新幹線、高密度ダイヤを走る大都市の列車など日本の鉄道は世界に類を見ない安全で快適な交通インフラに成長しました。

長期経営計画「Vision-2020 3E」

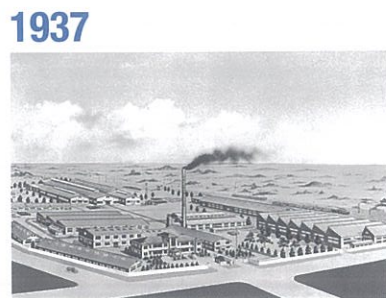
Vision グローバル社会に適応した持続成長企業

成長の視点 **3E** トリプルE

経済 **Economy** 環境 **Environment** エネルギー **Energy**



1928
日本信号株式会社を設立
(三村工場、塩田工場、鉄道信号株式会社を統合)



1937
埼玉県浦和市(現・さいたま市)に与野事業所を開設



1962
宇都宮事業所を開設



1995
ISO9001認証取得

2001
久喜事業所を開設



2007
本社を東京都千代田区(新丸の内ビルディング)へ移転

2008
中国現地法人会社「北京日信安通貿易有限公司」を設立
長期経営計画「Vision-2020 3E」策定



2015
インド現地法人会社「Nippon Signal India Pvt. Ltd.」を設立



1931
国産交通信号機を製作し、日本橋交差点、呉羽橋交差点、桜橋交差点に設置



1958
CTCを伊東線に納入・使用開始、日本国有鉄道におけるCTC第1号機



1964
東海道新幹線(東京～新大阪間)開業、ATC、CTCなどを納入・使用開始



1969
自動改札装置を東京モノレールに納入・使用開始



1972
栃木県警察本部交通管制センター開設、管制センター信号設備を納入・使用開始



1970
パークロックを開発



1972
札幌市営地下鉄に日本初のトータルAFCシステムを納入



1988
信号プロジェクト契約をトルコ国鉄と締結、初の海外ターンキー契約



1998
台湾全島の鉄道信号近代化(CTC、電子連動など)を一括受注



2007
台湾新幹線開通、信号システムを納入
稼働開始共通ICカード(Suica・PASMO)相互利用開始、自動出札機の一斉改造を受注・完了



2007
「安全信頼創造センター」を開設

2011
大江戸線ホームドア納入開始
北京地下鉄15号線にて無線式信号保安システム「SPARCS」の営業運転が開始

2017
「SPARCS」を導入したインド・デリーメトロ8号線が全線開業

安全と信頼を守るテクノロジー

暮らしの中で自然とあふれる笑顔——
私たち日本信号は「安全と信頼」のテクノロジーで、大切な笑顔を守り続けていきます。



鉄道信号事業

信号機や踏切遮断機から、列車集中制御装置や自動列車制御装置などのシステムまであらゆる場面で鉄道輸送を支えています。



AFC事業

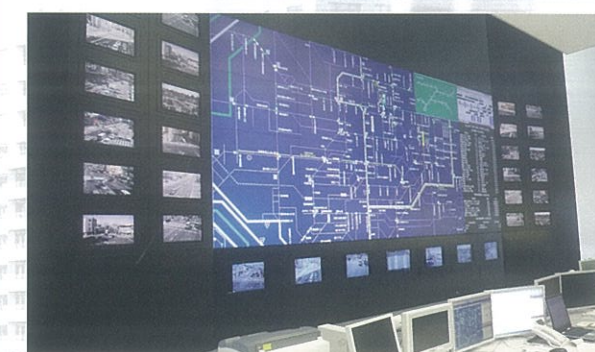
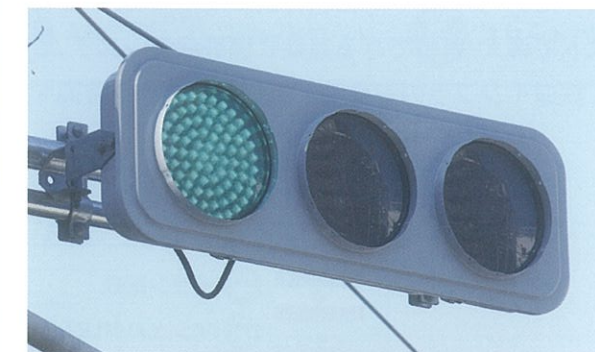
自動券売機、自動出改札機など、毎日の通勤や通学を快適にする駅務自動化装置から、ホームドアなど駅の安全・安心を考えた製品、駅案内ロボットや清掃ロボットまで各種製品・システムを提供しています。



スマートモビリティ事業



スマートロード
交通信号制御システムから道路交通情報システムまで、道路交通の安全を支えています。



スマートパーク
パークロックや入出庫を一括管理できるゲート式駐車場システムなど駐車場のほか、駐輪場にも取り組んでいます。



鉄道インフラの「安全と信頼」を多くの人へ

世界的に評価が高い日本の鉄道信号分野をリードしてきた当社は、戦前から海外の鉄道インフラの整備事業に進出し、2008年に中国現地法人、2015年にインド現地法人を設立しました。現在までに、アジアを中心に世界25の国と地域で数多くのプロジェクトを展開しています。低コストで導入・維持できる無線式信号保安システム「SPARCS」やAFCシステムを軸に、世界に鉄道インフラの安全性と信頼性を高める技術を提供しています。

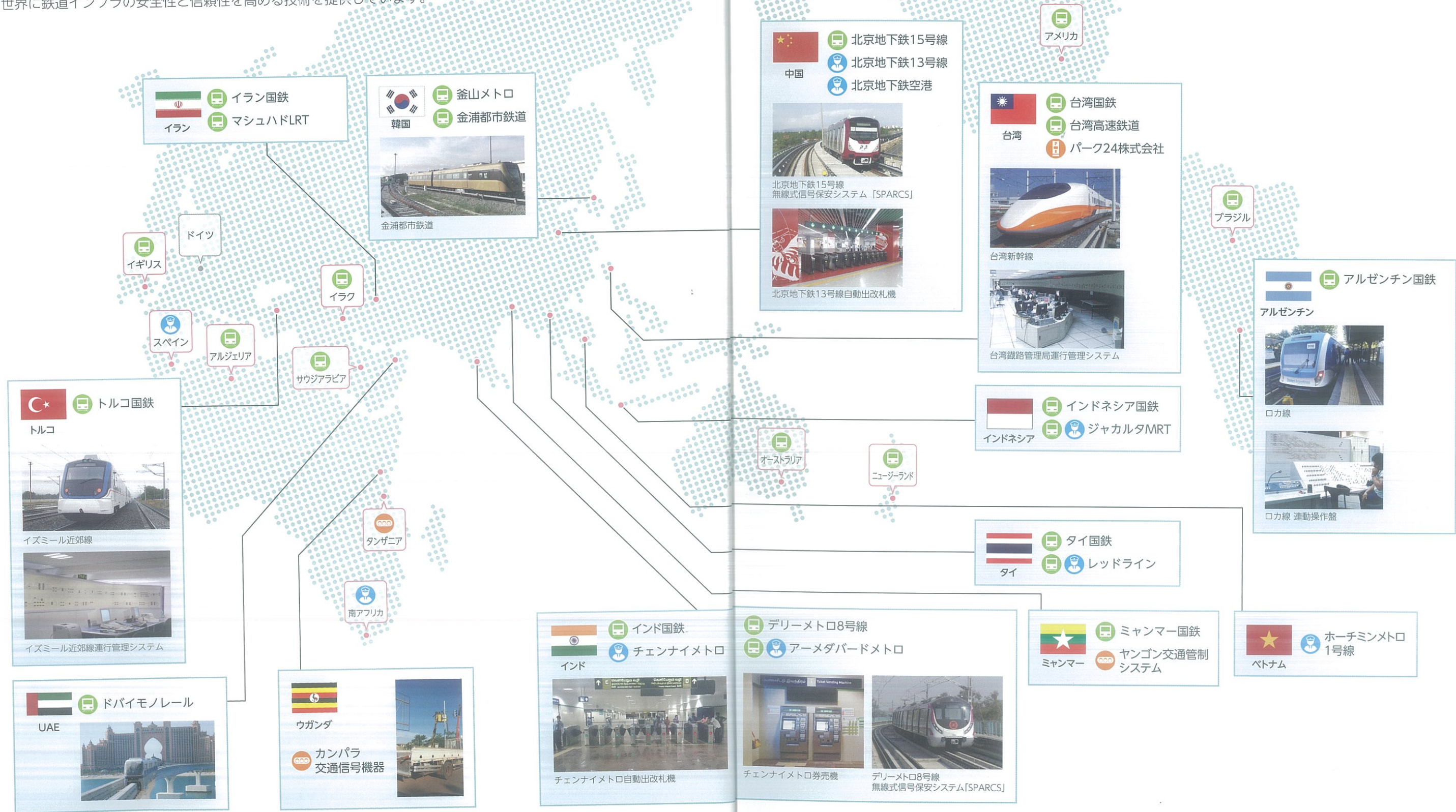
海外展開国と地域数

世界的に評価の高い日本の鉄道信号分野において、長年にわたりリーダーシップを担ってきた経験と技術を裏付けとして、積極的に海外に展開しています。

25

の国と地域

- 鉄道信号
- AFC
- スマートロード
- スマートパーク



2015年9月、先進国を含む世界全体が2030年までに達成すべき目標を定める「持続可能な開発目標(SDGs:エスディーゼーズ)」が国連で採択されました。全部で17の目標には「地球環境を守ること」や「ダイバーシティの推進」だけでなく「災害に強いインフラづくり」も含まれています。日本信号グループは、我々がどのような役割を果たすべきかを考えこれらの社会課題の解決に貢献していきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



目標	内容	当社の重要課題	対応実績
3 3歳未満の子供の健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	交通インフラという公共性の高い事業に関わる企業として、全ての人々が安心して健康的に暮らせる社会をめざした製品やサービスを提供します。また、障がいを持つ人の自立や社会進出を支援します。障がいの実態について理解を深める活動に協力することで社会参加の壁を取り除きます。	<ul style="list-style-type: none"> 最先端技術を採用した様々な医療用画像診断装置に対し、高度な専門技術による据え付け・保守・点検を実施し患者の生活の質(QOL)向上に貢献(グループ会社 日信電子サービス) 80周年記念事業として国内グループ会社の全役員・全従業員約3,000名が救命技能認定証を取得する取り組みを開始し、約10年間継続 障がいを持つミュージシャンの音楽コンテストである「ゴールドコンサート」に協賛 久喜事業所で開催した鉄道まつりで、視覚障がいの実態と盲導犬の仕事内容を紹介
4 質の高い教育をみんなに	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	質の高い文化・芸術を通じた国際交流や地域交流の活性化を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> 20世紀を代表する指揮者・作曲家レナード・バーンスタインが創設した、若手音楽家を育てる国際教育音楽祭である「パシフィックミュージック・フェスティバル(PMF)」に協賛 世界的ピアニストである小山実稚恵様が東日本大震災の復興支援として、子供たちに実体験の中で将来への夢や希望を見つけて欲しいとの思いから企画したイベントである「こどもの夢ひろば ボレロ」に協賛
5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	多様な人材が活躍できる環境を整え、女性の活躍を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージの変化に対応して女性の活躍を支える企業内保育施設「シグナリオキッズ」の開設 理工系分野に興味を持っている女子学生のキャリア形成を推進する「リコチャレ」に参加 社員の交流を活性化し人づくりの拠点となる多機能型独身寮「シグナリオ七里・宇都宮」の開設
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	クリーンエネルギーに関するインフラと技術の拡大などを通じ、エネルギーへのアクセス拡大と、再生可能エネルギーの使用増大を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電ビジネスへの参入(グループ会社 福岡日信電子) 独身寮「シグナリオ七里・宇都宮」での太陽光発電の利用
8 働きがいも経済成長も	すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する	グローバル化する企業活動・サプライチェーンにおいて、労働環境改善、人権侵害をなくすため、コンプライアンス教育を定期的に実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> グループ理念の教育活動 グループ共通のコンプライアンス教育展開
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともにイノベーションの拡大を図る	IoT技術を活用し、世界中で稼働している当社製品をネットワークで結んで監視したり、インフラ用途のセンシング技術を活用したソリューションを提供し、災害や事故に強いインフラの構築を行います。また、鉄道信号・交通信号などインフラ全般に関わる企業としてシームレスな移動を実現します。	<ul style="list-style-type: none"> 安全信頼創造センターにおけるインフラ機器の予防保守 ICTを活用してインフラの異常を検知し、鉄道を災害から守る製品「インフラドクター」の開発 地中レーダによる道路保全
11 住み続けられるまちづくりを	都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする	全ての人々が安心して交通インフラを利用できる環境を整えます。また、少子高齢化や労働力不足に対し、これを補うロボットの開発や自動運転の実証実験に参加しています。	<ul style="list-style-type: none"> ホームドアやコンシェルジュロボットの普及 3D距離画像センサの検知機能を活用し、駅や建築現場における事故を防止 自動運転の実現による事故の防止
12 つくもの責任、つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する	国際規格ISO14001・9001に基づいた環境・品質マネジメントシステムを導入しています。製造から廃棄まで、事業活動を通じて排出されるCO2の削減に全拠点をあげて取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> エコ製品の開発・環境負荷を低減した製品の開発・エコラベル製品の開発 環境に優しい無線式鉄道信号システム「SPARCS」の販売
13 気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	成長が続くアジア・アフリカにおいて、大気汚染の悪化やCO2の排出増加が予測されるなか、鉄道網や交通システムの構築を提案し、排気ガスによる大気汚染、環境負荷を軽減し、インフラ整備を通じた世界的課題の解決に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> アジアにおける環境に優しい無線式鉄道信号システム「SPARCS」の販売 ウガンダにおける交通信号システムの提案
16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	世界的に不確実性が高まる中、テロの脅威を未然に防ぎ、都市やインフラの安全を守ります。	<ul style="list-style-type: none"> テロを未然に防止する爆発物探知ゲートやイベント会場のハイセキュリティを支えるX線を使った手荷物自動検査装置の拡販
17 パートナリプで目標を達成しよう	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化	アジアやアフリカなど新興国の経済発展に伴う都市化を支えるため、将来のビジネスパートナー創出とグローバル人材育成を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 「アフリカ起業支援コンソーシアム」にゴールド会員として協賛し、アフリカで起業する若手日本人起業家を支援 日本製品の重要性の理解、将来の日本とアフリカ間でビジネスパートナーとなる人材育成を目的としたアフリカ人留学生のインターンシップである「ABEイニシアティブプログラム」に協力